

2015年度 関西学院大学自己点検・評価
 <C票> 第三者評価結果 【経済学部】

教育研究目標 1

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 基礎学力として英語の能力に焦点をしばっていることは具体的である（評価者A） ・ 目指す姿は英語力が中心となっていますが、具体的ではあると思われます。（評価者B） ・ 目標と姿が具体的に想定されている。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点： ・ タイトルに英語力についての記載を少し盛り込むと、さらに分かりやすいように思われます。（評価者B）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当な内容と思われます。（評価者B） ・ 目標は具体的で客観性が高い。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 評価尺度としては明確ですが、何年次のデータによるのかが不明確と思われます。（評価者B） ・ 指標は具体的に評価できる。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当な内容と思われます。（評価者B） ・ スケジュール設定は適切である。（評価者C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Writing across Currinulum 科目グループ」の設定という計画は具体的で、適切です。(評価者A) ・ わかりやすいと思われます。(評価者B) ・ 目標はかなり具体的に記述されている。(評価者C)
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Writing across Curriculum 科目グループ」の具体的内容については読み取りにくさがあります。(評価者B) 	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>(設定された6年後のめざす姿(目標)の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目グループの設定によってどのような能力が学生に身につく、それをどのようにして担保するのか、さらなる検討が期待されます。(評価者A) ・ 「Writing across Curriculum 科目グループ」の具体的内容については不明ですが、共通の目標として取り組む意義は大きいといえます。(評価者B) ・ 内容は具体的で客観性を伴っている。(評価者C)
<p>評価指標</p> <p>(目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本来は目指す姿について評価できる内容が望ましく、「Writing across Curriculum 科目グループ」の設定は、その手段であると思われます。本来は目指す学生の姿が直接測れる指標の方が望ましいといえます。(評価者B) ・ 評価も数値で表され妥当である。(評価者C)
<p>目標達成スケジュール</p> <p>(目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュールとしては、問題ないと思います。(評価者B) ・ スケジュール設定も適切である。(評価者C)

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・ ポートフォリオの活用という計画は具体的です。（評価者A） ・ 全ての学生へ目配せし、数値目標を具体的に示すことは評価できます。（評価者B） ・ 関連性は高い。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由：
その他気づいた点： ・ 問題認識が明らかに記述されている。（評価者C）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 適切な目標であると思います。（評価者A） ・ 背景を踏まえた多様な課題が読み取れ、様々な角度から改善しようとする意欲は重要と考えます。（評価者B） ・ 取組が意欲的である。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 学生生活満足度測定の内容が不明です。（評価者B） ・ 評価指標が数値で示されている。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 4つの指標が全て段階的に上がるスケジュールには、少し困難が伴うように感じます。（評価者B） ・ スケジュール設定は適切である。（評価者C）

教育研究目標 4

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の活性化をディスカッションペーパーの本数、セミナーの開催の増加というのは、分りやすい関係です。（評価者A） 分かりやすい内容になっています。（評価者B） 関係性は高く具体的である。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語での情報発信については目指す姿には記入されていません。（評価者B） 	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>（設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 妥当な内容と思われませんが、教育研究目標に記載した内容が学生の教育や目指す姿に具体的にどのような影響があるかについても記載するとさらに良いように思います。（評価者B） 経済学部の特長を伸長させる内容である。（評価者C）
<p>評価指標</p> <p>（目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> 行動計画の尺度を集約する形ではなく、本来は、研究成果を社会に還元し寄与する結果を測る指標が望まれます。（評価者B） 評価指標が数値化され妥当である。（評価者C）
<p>目標達成スケジュール</p> <p>（目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> スケジュールとしては適切のように思われます。（評価者B） スケジュール設定は適切である。（評価者C）

教育研究目標 5

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・現時点での目標としては具体的である。（評価者A） ・直接的に繋がっています。（評価者B） ・関係性が具体的にイメージ出来る。（評価者C）
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点： ・制度を改善することによってどのような学生の姿を目指すのかを教育研究目標のタイトルや狙いに記載することが望まれます。（評価者B）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・なぜ、「学部教育で前提とされている学力がない」学生が入学してくるのか、社会的な状況によるものなのか、本学特有なものなのか、原因の分析に基づいた行動計画が、期待されるのではないかと考えられます。（評価者A） ・目指す姿については、分かりやすいと考えられます。（評価者B） ・客観的に見て妥当である。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・妥当と考えられます。（評価者B） ・指標が具体的に数値化され妥当である。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・適切と考えられます。（評価者B） ・スケジュール設定は適切である。（評価者C）